

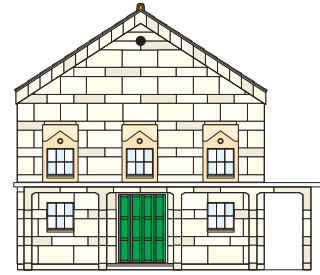
Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2018-08-15

APM news 196

秋山孝ポスター美術館 長岡

国の登録有形文化財・長岡市都市景観賞受賞・金庫扉と雁木のある美術館



〒940-1106 新潟県長岡市内宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第27回企画展 秋山孝ポスター展10

秋山孝の神秘4 「印刷すること」「手描きすること」4



時代が進むにつれて人間の社会構造が出来上がり、文字や絵が効果的なメッセージや記録媒体となり、人間の支配または秩序のために必要不可欠となった。目に見えない概念までも絵や文字で伝えようと進化してきたのである。絵の役割と文字の役割は異なり、絵はヴィジュアルコミュニケーションのため文字を必要とせず、絵を見ることによって言葉のように伝達が容易になった。そのため、象徴的権力者の肖像画や宗教などの奇跡や教えが主題となり壁などに描かれるようになった。その際に用いられたモザイクやフレスコ画と呼ばれる絵画技法が発展した。モザイクは壁に無数の小石を埋め込み、図像を作り出し、フレスコ画は生乾きの状態の漆喰に、水で溶いた顔料で彩色する。モザイク画の代表的な作品としてヴィザンチン美術の宝庫であるラヴェンナの聖ピタレ聖堂の「キリスト」(547年頃 ラヴェンナ)が知られている。フレスコ画の代表としては、ミケランジェロが描いたバチカンのシステナ礼拝堂の天井画(1508～12年頃 ローマ)やレオナルド・ダヴィンチの描いたサンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ聖堂修道院食堂画(1495～98年頃 フィレンツェ)などが有名だ。

さらに、時代は進化しテンペラ技法が生まれた。卵テンペラが主流で代表的な作品としてボッティチェリの「プリマヴェーラ」(1477～78年頃)や北方ルネサンス時代のハンス・ホルバイン「大使たち」(1533年 ドイツ)などが挙げられる。その後、油絵の具が全盛を迎え、支持体としてキャンバスが一般化した。近代になりアクリル樹脂を使ったアクリル絵の具が主流になった。それ以外の絵画材料はあるが、紙などに適したパステル・コンテ、インク、色鉛筆、木炭、水彩などが発達する。よって、この長期にわたる時代を経ながら顔料とメジウムの関係から生まれる強烈な美がそこに横たわっている。それに比べ印刷によるインクは高速回転による印刷機(オフセット)によって先ほど述べた文字と絵の関係が、コミュニケーションというキーワードによってハイスピードな伝達能力がそこに誕生した。現代は電子メディアによるコンピュータの登場により、上記の印刷メディアも取り込みながら文字・図像・音までもが電子技術によって表現されるような時代になった。結果、これらの歴史的な視点から見る絵画表現の変遷を理解することができる。

秋山孝の神秘として「印刷すること」「手描きすること」の持っている違いや魅力が大きく異なっていることが理解できるだろう。その違いを認識し独自の表現として展開しているのである。その独自性も前3回のテーマを踏まえ、4年目として多くの表現技術や表現コンセプトに深く影響していることが理解して頂けるだろう。さらに、このシリーズは継続していきたいと考えている。

秋山 孝 (APM館長・多摩美術大学教授)